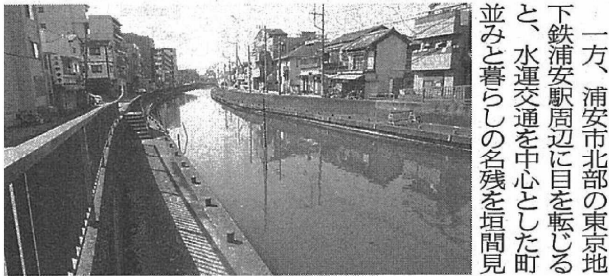


JR舞浜駅に降り立つと、カラフルな服装を身にまとい、たくさんキャラクターグッズを抱えた若者や家族連れでごった返す光景を目の当たりにする。「東京ディズニーランド」は今年で開園35周年。年間3千万人超が訪れる国内最大のテーマパークであり、駅構内はまさしく「夢の国」と見まがうばかりの笑顔であふれている。

JR京葉線沿線の町並みは、整然とした区画街路に大小の戸建て住宅、高層マンションが立ち並び、緑地・公園・各種スポーツ施設が計画的に配置された理想的なまちを実現している。

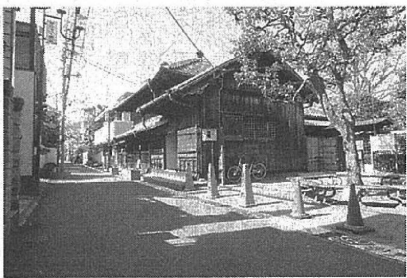
境川沿いの銭湯



一方、浦安市北部の東京地下鉄浦安駅周辺に目を転じると、水運交通を中心とした町並みと暮らしの名残を垣間見ることが出来る。



④境川「記念橋」から江戸川方面を望む ⑤⑥今も営業している「末広湯」の外観 ⑦隣接する「旧宇田川家住宅」



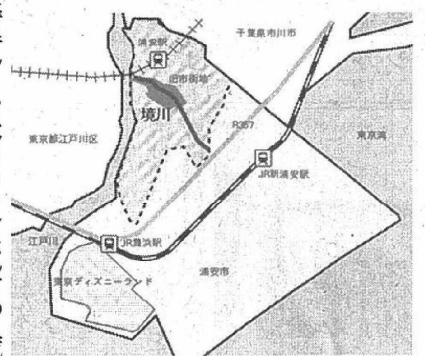
境川(さかいがわ)。浦安市中心部を江戸川から東京湾にかけて流れる川である。その木造瓦葺きの入り口と、裏口には高い煙突がそびえ立ち、懐かしい昭和の面影を残している。今日も地元の人々が湯

一般財団法人日本不動産研究所 ① 地域資源を生かす ～まちづくりからインバウンドまで

千葉県浦安市

の川沿いには歴史を感じる古い屋敷や家屋が残る。そこに今も営業を続けている一軒の銭湯「末広湯」がある。明治以降、境川とともに暮らしてきた漁師とその家族は内風呂がない家が多かった。昭和初期にわかつていただけでも7軒ほどが認められるほど銭湯の多い町だった。漁師達は、漁を終え家に戻る汗を流すためにすすぎるま銭湯に出かけ、漁師仲間との親交と情報交換を行っていた。たのち、現在も一般公開されている。「末広湯」の佇まいは、

新旧の街が対照的な浦安市内の位置図



「夢の国」「計画的なまち」と水運の暮らし

モダンと歴史、伝統が共存

4年1回の三社祭も

もベッドタウンとしての人気は健在である。しかし、一歩旧市街地に踏み入れれば、昔ながらの「漁師町」の名残が多く存在している。

浦安は過去、幾度となく大きな風水害に襲われてきた歴史とともに、危険と隣り合わせの漁業を生業としていた暮らしからだろうか、神社仏閣が旧市街地に点在しているのは、人々の信仰心の篤さの現れであろう。また、「講社」といわれる民間信仰も活発であった。富士講、庚申講などのほか、浦安を発祥とする大六天講、万灯講、大師講など多くの講が組織され、日常生活の中に深く根付いていたであろうことがうかがえる。

浦安市はテーマパークと現代的な住宅地が広がる都市というイメージが定着し、現在

歴史と伝統を守るといいう市民意識も高く、境川では「嫁入り舟」を再現した行事や、4年に1度の「三社祭」は今でも盛大に行われている。現代都市とテーマパークのイメージが強い浦安市であるが、歴史を感じる町並みは今も情緒ある風景を残し、漁師町文化は息づいている。夢の国から旧市街地へ足を伸ばしてみれば、モダンと歴史・伝統のコントラストが体験できる都市である。

(企画部、不動産鑑定士・幸田仁)

本号から、全国各地に根付く「地域資源」をシリーズで紹介していきます。